

消防庁舎再整備に ついての説明会

日時：令和6年8月24日（土）

①10時00分～

②14時00分～

場所：①大磯町保健センター 2階研修室

②大磯町役場国府支所 2階会議室

担当：消防本部消防総務課

消防庁舎再整備についての説明会

- 1 消防庁舎の現状
- 2 消防業務実態比較
- 3 県内町消防本部比較
- 4 再整備の方向性
- 5 署所体制



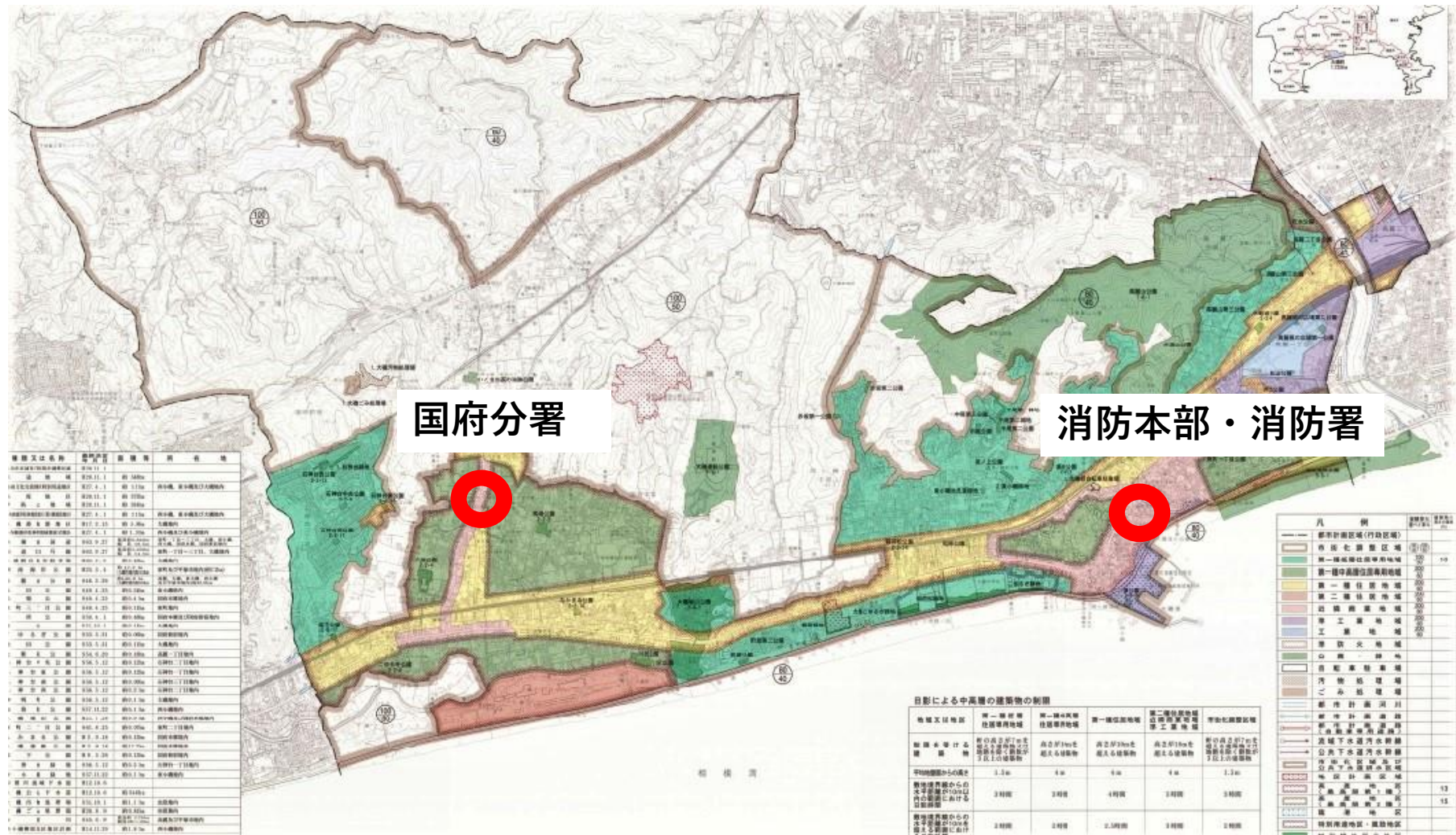
大膳町武道館

大膳町消防本部

火災予防運動実施中

10m

庁舎配置図



消防庁舎の現状

施設名称	消防本部・消防署	国府分署
所在地	大磯町大磯1075番地	大磯町月京6-10
敷地面積	815.62㎡（町有地573.16㎡、県有地242.46㎡）	国府支所、図書館分館と複合 1,182.36㎡
建築年	昭和49年（1974年）	平成8年（1996年）
建築面積	495.16㎡	1,189㎡
延床面積	1,384.961㎡（3階武道館486.160㎡を含む）	213.032㎡（分署分）
構造・規模	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造含)地上4階建	鉄骨造地上2階建 (分署は1階部分)
備考	津波災害警戒区域（R3神奈川県指定）	

施設の老朽化

消防本部庁舎は昭和49年（1974年）に竣工し、50年が経過しており施設全体の老朽化が進んでいます。また、外壁等屋外設備は塩害の影響もあり抜本的な対策が必要です。

主な改修経過

平成5年度	耐震改修工事
平成20年度	空調設備改修工事
平成26年度	非常用自家発電設備整備
平成28年度	アスベスト対策工事
平成30年度	女性職員用施設整備工事
令和2年度	外壁補修・給水管、受水槽修繕、事務室空調修繕
令和3年度	屋上防水工事、事務室空調修繕
令和4年度	污水管修繕

施設の耐震性

- 令和5年度の耐震診断では構造耐震指標Is値は0.337～1.578で、国が基準とする0.9以上を確保できていない階があります。
- 耐震補強工事を実施しても、国が基準とする数値を確保することができない状況です。

X方向（南北方向）Is値（構造耐震指標）

区分	再診断 (令和5年度)	補強案
4階	1.122	1.172
3階	0.337	0.676
2階	0.381	0.750
1階	0.636	0.523

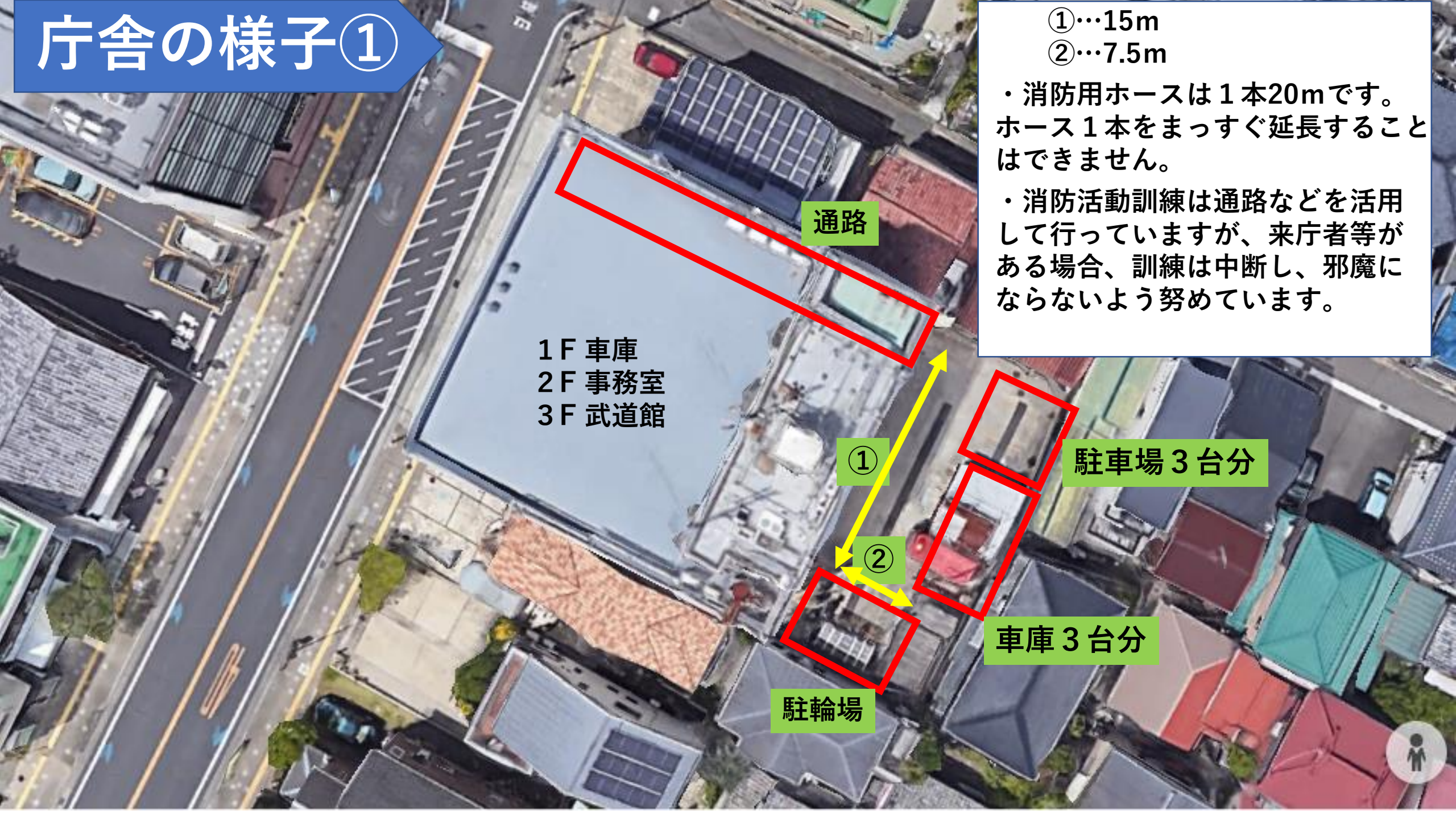
Y方向（東西方向）Is値（構造耐震指標）

区分	再診断 (令和5年度)	補強案
4階	1.578	1.876
3階	0.872	0.910
2階	0.612	0.947
1階	0.820	1.033

敷地・施設の狭小化

- ・ 現敷地は約815m²で消防署としては極めて狭小な敷地
- ・ 車両や資機材の保管施設等が不足し、職員の訓練スペースも限定
- ・ 庁舎裏に仮設で建てられている訓練棟も狭小であり、訓練内容は限られる
- ・ 10名以上が収容できる会議室等がないため、大人数の参加が見込まれる会議などは他の施設を借用

庁舎の様子①



1F 車庫
2F 事務室
3F 武道館

通路

①

②

駐車場 3台分

車庫 3台分

駐輪場

①…15m

②…7.5m

・消防用ホースは1本20mです。
ホース1本をまっすぐ延長することはできません。

・消防活動訓練は通路などを活用
して行っていますが、来庁者等が
ある場合、訓練は中断し、邪魔に
ならないよう努めています。



庁舎の様子②



庁舎南側は職員用の駐輪場があり、武道館の入口及び武道館利用者の駐輪場も兼ねています。

武道館利用者が多い場合は、出動車両の前に駐輪しないようにカラーコーン等で来庁者の誘導をしています。

庁舎の様子③



シャッターの位置



車両の駐車スペースも限られており、車庫内に車両が収まらないためシャッターを閉めることができません。
また、車庫の幅が狭いため車両同士の間隔が狭く、2台同時に隊員が車両に乗り込むことができません。

庁舎の様子④

庁舎北側（国道側）の敷地は狭隘です。



歩道との境界線

庁舎の様子⑤

国道の信号が赤信号時に前後誘導員を配置し、車両を移動します。



東側の民家と隣接してる。



訓練の様子①

消防用ホース（20m）が全延長できません。

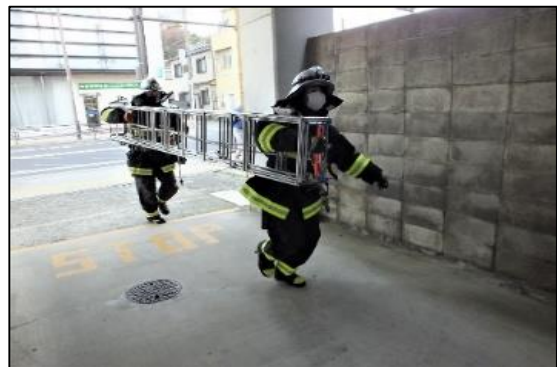


車庫の上に簡易的な足場を作成し訓練を行っています。

訓練の様子②



車庫上の仮設訓練塔で救助訓練



敷地内通路での消火訓練

工夫しながら訓練を実施していますが、僅かな資機材を使い、同じような訓練しかできず、放水訓練もできません。

また、運動公園など他の施設へ移動して訓練を行っています。

他市の消防訓練施設



秦野市消防署西分署（分署員32名）訓練塔付庁舎



厚木市消防署南毛利分署（分署員21名）訓練塔

他市の消防施設



資機材の分散配置

緊急消防援助隊資機材の一部を高麗の生涯学習館に倉庫を設置し、保管

出動要請があった場合は、資機材を取りに行く



緊急消防援助隊とは

日本国内で大規模災害が発生した場合に、被災地だけでは対処できないことがあります。

その場合、被災地からの要請を受け全国各地の消防本部が応援に駆け付けます。

庁舎のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて

消防庁舎には多くの方が届け出や相談事項などにより来庁されますが、下記のような施設設備がなく、障害のある方が一人で事務室へ上がることができないなど、全ての方が利用しやすい施設とは言えない状況となっています。

- ・ 玄関出入口の自動ドア
- ・ 事務室出入口の自動ドア
- ・ エレベーター
- ・ 車いす利用者も楽に通過できる廊下
- ・ 車いす利用者の駐車スペース
- ・ 誰もが利用できる多目的トイレ

消防業務実態比較表

年		昭和49年(竣工時)	令和 5 年
人口		27,635人(昭和50年 4 月1日)	30,952人(令和 6 年 4 月1日)
世帯		6,992世帯(昭和50年 4 月1日)	12,960世帯(令和 6 年 4 月1日)
消防職員数		25人	40人 (令和 6 年 4 月1日)
消防本部・消防署			計 50人
	国府分署	－	10人 (令和 6 年 4 月1日)
保有車両等		10台(車両 8 台、他 2 台) ・ 消防ポンプ自動車 2 台 ・ 化学消防ポンプ自動車 1 台 ・ 積載車 1 台 ・ 救急車 2 台 ・ 指令車 1 台 ・ 広報車 1 台 ・ 小型動力ポンプ 2 台	12台(車両 9 台、他 3 台) ・ 水槽付き消防ポンプ自動車 1 台 ・ 消防ポンプ自動車 1 台 ・ 救助工作車 1 台 ・ 高規格救急車 2 台 ・ 指揮車 1 台 ・ 防災資機材運搬車 2 台 ・ 防災活動車 1 台 ・ 小型動力ポンプ 3 台
	国府分署	－	3 台(車両 2 台、他 1 台) ・ 消防ポンプ自動車 1 台 ・ 高規格救急車 1 台 ・ 小型動力ポンプ 1 台
火災発生件数		16件(建物 3、林野 4、車両 1、他 8)	10件(建物 8、その他 2)
救急件数		出場560件、搬送人員553人	出場1,018件、搬送人員964人
消防本部・消防署			
	国府分署	－	出場941件、搬送人員901人
予防業務件数		612件 (火災予防届出202・危険物届出35、消防同意375)	1,026件(火災予防届出804・危険物届出34、消防同意188)

県内町消防本部の比較

消防本部名	署体制	職員定数 (人)	人口 (人)	管轄面積 (k m ²)	本署敷地面積 (m ²)	本署延床面積 (m ²)
愛川町消防本部	2 署所	68	39,498	34	3,032.90	2,509.820
葉山町消防本部	1 署	55	32,272	17	1,675.30	2,524.490
二宮町消防本部	1 署	51	27,741	9	1,394.17	1,213.090
湯河原町消防本部	3 署所	81	29,083	48	1,616.00	1,024.000
箱根町消防本部	4 署所	104	10,907	93	2,766.87	2,802.130
大磯町消防本部	2 署所	50	32,054	17	815.62	898,801

※人口は、住民基本台帳、外国人登録法に基づく人口

再整備の方向性について

令和5年の耐震補強可能性調査の実施結果により耐震補強工事を実施しても国が基準とする構造耐震指標I_s値0.9以上を確保することができない状況であったため建替えの検討を進めます。

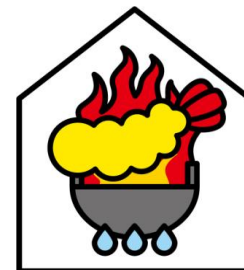
現在本署・分署の2署体制で運用していますが、近年発生している風水害をはじめ自然災害等の多種複雑化する災害に対応するため消防職員を1か所に集約し災害対応に当たることが望ましいと考えます。

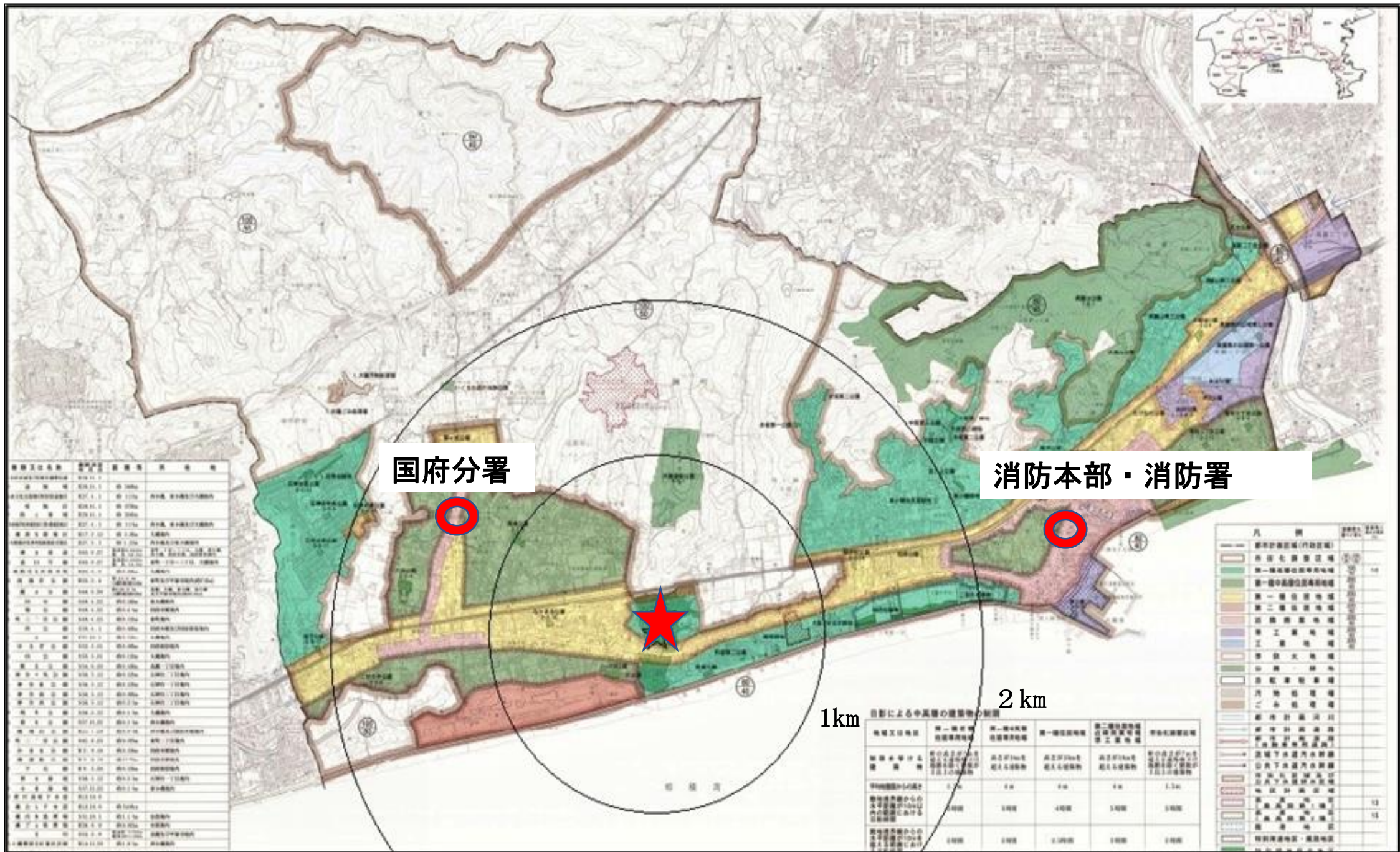
また、将来消防の広域化が実現した場合を考慮すると、東西に長い本町の地形から、行政境の現場へは他署所からの出動も考えられることから、消防庁舎はなるべく町の中心部が望ましいと考えます。

このことから、高麗地内の平塚市との境から虫窪地内の二宮町境までの主要幹線道路を移動する距離（約10Km）のおおむね中間地点である大磯城山公園を起点に、半径1Km圏内が望ましいと考えます。

署所体制について

区 分	2 署体制（本署・分署）	1 署体制（本署のみ）
出動態勢	人員が分散するため出動できる車両に限りがあり、多種多様な災害への対応が困難。 （本署 2 台・分署 1 台 = 3 台）	人員が集中するため、出動できる車両が増え車両の乗換も可能となり、多種多様な災害対応が可能となる。（4 台以上）
勤務形態	本署：7～8 名 分署 3～4 名	10～12 名
訓 練	少ない人数では、訓練内容に限りがある。	人員が集中するため訓練内容の幅が広がり職員の技術向上に繋がる。
車両管理	車両の点検・修理の際に本署と分署の入替えが必要となる。	車両の入替えの必要はない。





出動場所	目的地	距離(km) (四捨五入)	到着時間 (分・秒)
			時速(Km)
			40
消防本部 消防署	ロイヤルホームセンター	2.3	3:30
	えびや食堂	4.5	6:41
	レイクウッドゴルフクラブ	9.4	14:07
	幸寿苑	3.7	5:34
城山公園	ロイヤルホームセンター	4.7	6:58
	えびや食堂	2.1	3:13
	レイクウッドゴルフクラブ	7.1	10:38
	幸寿苑	3.9	5:48
国府分署	ロイヤルホームセンター	6.6	9:51
	えびや食堂	1.7	2:28
	レイクウッドゴルフクラブ	5.2	7:45
	幸寿苑	4.5	6:46

消防庁舎再整備について（まとめ）

建替えの検討をしていきます。

検討課題

- ・ 2 署体制について
- ・ 建替え場所の選定について